



## 『剣道から学ぶこと』

山形県  
東栄館道場  
小学6年生

佐藤 大心

ぼくが入団している東栄館道場では、練習後、必ず先生からのお話があります。そして、「剣道五つの誓い」を全員で大きな声で言います。

- 一つ、勉強します。
- 一つ、剣道します。
- 一つ、心を正しくします。
- 一つ、礼儀を尽くします。
- 一つ、教えを守ります。

この五つの誓いには、それぞれ大切な意味があり、思いがこめられています。ぼくは、「心を正しくします」とは、どういうことなのか「礼儀を尽くします」とは、どういう形なのかなどを考え、父に相談してみました。

父は、「剣道五つの誓い」を仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の文字の玉を持った8人の若者が主君を助けて、活躍した「里見八犬伝」の話をしてくれました。その八つの文字の意味は、仁とは、思いやり・いつくしみの心。義とは、道理・道徳にかなう正義をつらぬく心。礼とは、守るべき作法・敬意を表す心。智とは、善悪を正しく判断する心。忠とは、いつわりのない真心。信とは、うそを言わない誠実な心。孝とは、親や先祖を大切にすること。悌とは、兄弟、仲のいいこと。

このことは、人が生きていくための道標であると教えてくれました。それを聞いて、ぼくは、道場で毎回、復唱する「剣道五つの誓い」が、ぼく達<sup>11</sup>が大人になり、人として、正しく生きていく道を教えてくれているものだと判りました。それは、子供の頃の今から身につけていくものだと実感しました。

剣道を始めて3年半。今、それを教えてもらってどうすればいいのかわかってきました。

まずは、返事をしっかりすること。わがままを言わないこと。思いやりの気持ちを忘れないこと。約束を守ることだと思います。

ぼくが入団した頃、竹刀で打たれて、痛くて泣いていた時、上級生に「大心、大丈夫だが。」と、声をかけてもらったことがあります。上級生のあたたかな言葉に「よし、がんばろう。」という気持ちが出たことを思い出します。次は、ぼくの番です。下級生に対して、親身になって、やさしく接していこうと思います。

選手になれない時、悔しくて、「剣道をやめたい。」と思ったこともありました。そんな時、両親から、「6年生になったら選手になるんだから、今は、つらくても一生けん命がんばれ。」とはげましてくれました。心の弱さが出ている時、先生からは、手ぬぐいの文字の「克己」おのれに克つという話をいただきます。心の中に、けい古から逃げる自分、上手くならない理由を人のせいにする自分などいないかと、聞かれるのです。そのたびに、もう一人の自分に気づいたりします。

6年生になった今年、大きな気合いを出しながら練習を続けた結果、選手として大会に出ることができて、とてもうれしく思います。でも、チームの中では、良い結果を出すことができなくて、みんなの足を引っ張ることがあります。しかし、みんながぼくの分までがんばってくれます。とても感謝しています。

9月の大会では、先生の教えや多くの方々の応援で、みんなの気持ちが一つになって、準優勝することができました。

剣道をすること、それは、ただ技をみがぐだけのことではありません。人を思いやり、大切にすること。目上の人に、敬意を表すことなど、たくさんの意味や大事なことが含まれていることがわかりました。

これからは、一つひとつ実せんして、身につけていくことが、これからのぼくの目標です。必ずやりとげたいと思います。